

令和5年度第2回健康長寿ふくしま会議 議事概要

1 日時等

令和6年2月6日(火) 16:00から16:40
ホテル福島グリーンパレス2階 瑞光東の間

2 出席者

別紙出席者名簿のとおり

3 知事あいさつ

令和5年度第2回健康長寿ふくしま会議の開会に当たり、御挨拶を申し上げます。
本日はみなさん大変お忙しい中、また足元が悪い中、健康長寿ふくしま会議に御参加いただき、ありがとうございます。また、日頃から県民のみなさんの健康づくり増進のためにそれぞれの立場で一生懸命に活動していただいていることに、心から感謝を申し上げます。

昨年11月にこの会議を開催した際、福島県の健康指標が、全国の中でも厳しい状況にあるという「危機意識」、そして、それぞれの立場から、県民の皆さんの健康づくりに向けて「共に取り組む」、という二つの意識を共有させていただきました。「危機意識」「共に取り組む」それぞれ重要な思いであります。

第1回会議では、来年度からスタートします、「第三次健康ふくしま21計画」について御審議を頂き、重点的に改善を図るべき健康課題として「肥満・食塩・喫煙」この三点について計画に盛り込むことを決定させていただきました。

その後、専門部会における検討やパブリック・コメント等を通じて様々な御意見を伺い、最終案として取りまとめましたので、本日皆さんにお諮りしたいと思います。

この計画は、県と各団体・企業等の皆さんと一緒に推進主体となり、協働して健康づくりに取り組んでいくための重要な行動計画であります。そして、この計画は作って終わりではありません。ここからが正に本格的なスタートです。今後は、「肥満・食塩・喫煙」この三つの健康課題の改善に向けた効果的な取組が大切です。

そのためにも、健康づくりに向けて、県民の皆さんとどのように一緒に取り組んでいけばよいのか、具体的な方針や思いを皆さんと共有しながら、今日、議論を進めていければと思います。

また本日は、健康づくりの更なる気運醸成を図り、県民の皆さんと共に取組を進めていくため、分かりやすく伝わりやすい、新しいスローガンを決定したいと考えております。

皆さん、本日の会議を通じて、健康づくりを前進させたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

4 議事

(1) 議案第1号 第三次健康ふくしま21計画(最終案)について

○冊子「第三次健康ふくしま21計画(最終案)」により事務局から説明。

特に、第1回会議からの主な変更箇所として、43ページに「重点的に改善を図る健康課題」である「肥満・食塩・喫煙」の記載を加えるとともに、専門部会である地域・職域連携推進部会が検討した重点スローガン(案)「みんなでチャレンジ! 減塩・禁煙・脱肥満」について説明。

○各委員から意見・質問等なし

■福島県 内堀知事

意見等がないようですので、それではお諮りいたします。

第三次健康ふくしま21計画（最終案）について、今回の内容を本会議として承認することとしてよろしいでしょうか。

※異議なしの声

(2) 報告第1号 福島県の令和6年度健康づくり事業について

○資料1により、県の令和6年度重点事業「ふくしま脱メタボプロジェクト事業」、「ふくしまおいしく減塩緊急対策事業」、「健康経営トータルサポート事業」について事務局から説明。

○各委員から意見、質問等なし

(3) 報告第2号 各団体における取組方針について

○資料2のとおり、第三次健康ふくしま21計画の推進に向けた各団体の取組方針を記載。

○内堀知事から委員を指名し、取組方針や思いについて各委員が発言。

<各委員発言>

■公立大学法人福島県立医科大学 理事長 竹之下誠一委員

医大は、皆様から得られた健診等のデータを集計した福島県の健康データベースの分析・評価を行い、県民の健康状況を「見える化」し、市町村や皆さんの健康増進施策に対する助言などを行っています。

2つ目は、人材育成です。市町村等で実際に健康づくり活動を専門に担う方への研修に重点的に取り組んでおります。

■福島県 内堀知事

県民の皆さんの健康に関するデータベースは、とても大切な財産だと思っています。ポイントは「見える化」。どんなに良い財産があっても、それを十分に分かっていないといかせません。福島県全体で健康指標が良くないのですが、県内に59ある市町村によっても相当差があります。自治体にもよりますが、例えば心臓血管系が悪い、メタボ系がイマイチ、塩辛いものが好きだと思われる地域などの特性があります。それぞれの自治体によって、良い指標、あるいは良くない指標があると思います。この辺りを分かりやすくかみ砕いて医大さんに伝えていただくことで、市長・町長・村長さんとしても、危機意識を強めて具体的な取組にもつながると思います。「見える化」のデータベース、非常に重要ですので、引き続き取り組んでいただければと思います。

■一般社団法人福島県医師会 会長 佐藤武寿委員

福島県医師会がこれから1番時間をかけていきたいと思っているのが禁煙運動です。喫煙率が全国ワースト1位となり非常に悲しい点だと感じています。喫煙によるタバコの害はもちろん、受動喫煙がいかに関心かということ。この受動喫煙防止のために「イエローグリーンキャンペーン」というものを行って

います。こちらは、「愛する人をたばこの煙から守りたい。あなたの心をあらわす色です」というキャッチコピーで行っています。活動推進のために、スポーツ団体のファイヤーボンズのホームゲームや、サッカーのいわきFCのホームゲームにおいて、「イエローグリーンスペシャルマッチ」などを行っています。

また、5月31日は「世界禁煙デー」ということで、鶴ヶ城、二本松のお城、病院等をイエローグリーンにライトアップをすることで、意識の啓蒙を図っております。それと、2月18日は郡山で「タバコ問題を考える学術集会」があります。こちらには医療関係者だけではなく、行政・教育関係等、色々な人に参加していただき、たばこ問題について知っていただく予定です。

■福島県 内堀知事

医師会として、喫煙の問題に真正面から取り組みたいという思いがよく伝わってきました。現在、健康経営の関係で毎年優良事業所の表彰を行っています。職場における喫煙環境をなくしていき、従業員の皆さんが禁煙してくれる動き・取組を熱心に行っている企業さんが増えてきました。皆さんと連携し、お子さん等も含めた受動喫煙をなくしていく取組が大切だと思います。

また、新型コロナウイルス感染症について、現在、残念ながら福島県は全国的にもワーストクラスで感染者が高いという状況にあります。第10波という状況にあるのではないかと思うのですが、改めて今日非常に重要なメンバーが揃っていますので、基本的な感染対策についてアドバイスをいただければと思います。

■一般社団法人福島県医師会 会長 佐藤武寿委員

福島県医師会では、全数調査を月曜日と木曜日に行っています。先週の月曜日が1600人、今週の月曜日が1400人と、10波への坂を上り詰めている状態です。学校ではインフルエンザの集団感染というのがありますが、一般の方はどこで罹患するのか分からない状況です。ただ言えることは、飲食を伴う会合によって罹患する方が多いということです。罹患しないためには、個人個人が絶対に自分がかからないという認識で行動すること。簡単な対策としては、マスクを着用することです。経験からは、対面での話し合いで感染したケースが多いため、その点は配慮していただければと思います。

■福島産業保健総合支援センター 所長 中野新一委員

当センターでは主に働きながら治療をする人の両立支援とメンタルトレーニングを重点的にやっております。1月22日には協会けんぽと共催で「メンタルヘルスセミナー」を開きました。メンタルヘルスに関しては県の学校保健指導もしており、教職委員のメンタルヘルスチェックなどもさせていただいております。

また、5月31日は世界禁煙デーです。医師会と一緒に皆さんがびっくりするようなイベントをしたいと思っておりますので、その際にはよろしく願いいたします。

■福島県 内堀知事

5月31日のイベントですが、今回のスローガンの正に三本柱の一つがこの喫煙の問題ですので、真正面から向き合っていきたいと思います。

■全国健康保険協会福島支部 支部長 遠藤隆男委員

協会けんぽでは、県内3万7千7百の事業所、62万5千人の加入者がいらっしやいます。加入者の健康の維持・増進のために、健診の推進や保険指導の実施等に取り組んできました。今後も従来の取組を継続させていくことと併せて、業種ごとの健康課題を明確にした上で、関連団体と連携し、健康課題の改善に向けて取り組んでいきたいと思っております。

また、中野先生からもお話があったように、大変重要な課題の一つでもあるメンタルヘルスのセミナーを開催いたしました。

■福島県 内堀知事

メンタルヘルスの問題にも併せて取り組んでいくということが健康づくりの骨格になると思います。

■福島県歯科医師会 会長 海野仁委員

「オーラルフレイル」の予防、また、「オーラルフレイル」という言葉を皆さんに知っていただくことを推進しています。高年齢になってから取り組むのではなく、ある程度の年齢から積み重ねていかなければならない、ということをご案内していましたが、この取組を更に強化していきたいと考えています。

それとは別になりますが、労働衛生分野で、酸を取り扱う職場において、すべての職場で特殊検診が義務付けられています。この診断をする側の能力の均てん化を図って貢献していきたいという考えです。

さらに肥満についてですが、肥満の原因は食べ過ぎだけではなく、偏食によるものもあります。食べやすいものを食べるだけではなく、体に良いものを偏食なくバランスの取れた食事をするということが重要です。その際に、食べにくい、多く嚙まなければいけないものが、きちんと嚙める状態を皆さんに届けたいと考えております。そういった意味で貢献できれば、との考えでおりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

■福島県 内堀知事

オーラルフレイル、また、偏食が肥満とつながっている部分があるということ、非常に分かりやすかったです。

■福島県薬剤師会 会長 長谷川祐一委員

処方箋枚数が全国で約9億8千枚ということで、県民一人当たり年間約10回は薬局に行くということになります。皆さん薬局に来ると早く薬をもらって帰りたいと考えるのですが、来ていただいた際には、「肥満・食塩・喫煙」についての話を聞いていただいたり、健康相談をしていただいたりする機会にしたいと思っております。

また、出前講座では、学校薬剤師が子供たちや若い世代の人たちに、喫煙の危険性・リスクというのを啓蒙していく活動をしています。喫煙のリスク、アルコールのリスクなどを教え、そういったものに手を出さないように伝えることを活動の一つにしています。

■福島県 内堀知事

薬局は私たちにとって本当に身近な存在でもありますし、相談相手でもあります。「早く薬をもらって帰ろう」ということではなく、薬剤師の皆さんから色々なアドバイスをいただく、相談できる存在なのだということを知っていた

だくことが重要だと思います。ぜひ地域に身近な存在として、これからも健康に関する情報を発信していただければと思います。

■福島県看護協会 会長 佐藤博子委員

看護協会は、地域と密着した「まちの保健室」という活動を進めているところです。まちの保健室の地域連携としては、栄養士の皆さんに入っただき、地域住民の方に話をする、リハビリの方にフレイル予防の運動の話をしていただくなど、色々と趣向を凝らしているところです。まちの保健室と併せて健民アプリの利用も進めているのですが、正直まだまだということも聞いていますので、その周知も含めて皆様と一緒に取り組んでいければと思っていますところ。

■福島県 内堀知事

「まちの保健室」、すごく良い表現だと思います。気軽に行ける場所であると思いますし、保健師さんを含めて連携が重要だと思います。

■福島県栄養士会 会長 鈴木秀子委員

本会は、管理栄養士・栄養士を会員とする食の団体です。「食・栄養」というのは、人の成長、健康、そして幸せに暮らしていく上で欠かせないものです。栄養士会は、栄養士という専門性をいかし、県民の成長・健康・幸せに貢献したいと考えております。管理栄養士と栄養士がどこにいるのか分からないということをよく言われるのですが、「栄養ケアステーション」という管理栄養士・栄養士の活動拠点があります。この栄養ケアステーションの設置の支援を進め、栄養食生活支援のための体制の充実強化を図り、食と栄養に関する専門的な支援活動を積極的に実践していきたいと考えております。

スローガンが「みんなでチャレンジ！減塩・禁煙・脱肥満」ということで、減塩を基本とした様々な活動を展開していきたいと思っています。

■福島県 内堀知事

栄養ケアステーションは、我々にとって大事な食に関するアドバイスもいただけるような、県民の皆さんの身近な存在だと思います。今後ともぜひスローガンを心に置きながら、引き続きの活動をよろしく願いいたします。

■厚生労働省福島労働局 局長 井口真嘉委員

働く方々の健康ということで、50人以上の事業場ではストレスチェックの実施が義務付けられています。また、健康診断をしっかり実施してもらうことと同時に、アフターフォローが重要だと考えています。こういった問題について各方面と連携してしっかり取り組んでいければと思っています。

■福島県 内堀知事

「健康経営」というワードが日々当たり前になってきたと感じていますが、まだまだ普及していかなければいけない、という両面があると思います。メンタルケアも含めて、福島労働局さんと連携して取り組んでいきたいと思っています。

また、本日は新聞・テレビ・ラジオなど報道関係の方も多数来ていただいております。それぞれの媒体を通じて、非常に積極的に県民の健康づくりについて発信していただいていることに感謝申し上げます。

■株式会社福島民報社 代表取締役社長 芳見弘一委員

福島の真の復興というのは、健康で、長生きで、ここで暮らすことが最も幸せなのだと多くの方が理解することだと思っています。各社同様、弊社も県民の健康づくりが何よりも大事だということで取り組んでいます。現在、県立医大と連携して取り組んでいるのが「健康ふくしまプロジェクト」。これが大きな成果を出しています。第一弾は健康講座。加齢に伴うフレイルをいかに予防するかということで、県内各地 30 か所以上で、県立医大の教授の皆様の講演、運動指導などを実施しました。デスクワークの合間にできるものもあり、体を動かすことが非常に重要だと感じました。

第二弾は、県立医大と JA との協力で「ふくしまを育む『あしたの食卓』」というイベントを開催しました。県産食材の素晴らしさを生かすためには、いかに調理するべきか、という狙いで、東京「八芳園」の料理長に指導していただき、福島学院大学の学生に調理等を手伝っていただきました。

我々マスコミ関係者は、本日までご出席の皆様の様々な取組を、県民に対して積極的に発信・周知し、健康づくりを実現したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

■福島県 内堀知事

これからも地元の新聞・テレビ・ラジオ、それぞれのメディアを通じて県民の皆さんにより分かりやすい発信をしていただければ、本当にありがたいです。引き続きよろしくお願いいたします。

※以上で予定時間となったため終了。

■福島県 内堀知事

今日皆様のご協力をいただき、第三次計画の推進、そして新しいスローガン「みんなでチャレンジ！減塩・禁煙・脱肥満」、こうしたものを整理することができました。これからもみなさんと力を合わせて県民の健康づくりに真っすぐ取り組んでいきたいと思っております。今後ともぜひ、お力を貸してください。

本日はありがとうございました。

以上